

太陽の子

2024年 10月 No.189

秋 の 号

発 行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



特大の帆布バッグの依頼がありました。利用者さんが一針一針心を込めて紡いだオリジナルの刺繍も入り完成です。お見ごと！な製品になりました。(しいの木学園)

感謝の気持ちに生かされて

しいの木学園 管理者 横田 平道

仕事を終えて家に帰ると、自室の椅子に座り、合掌をして一日を振り返ります。日々、たくさんの方と接し、刺激を受け、教化されていると感じます。平凡と錯覚してしまっているような日常の中に、奇跡的な事が起きている事に気付きます。

その一つ一つに目を向けると、自分は本当に幸福な人間だと思えます。疲れ切っていた身体も少し楽になるような気がするから不思議です。

今日も一日を振り返ります。

朝、作業場に入ると、利用者さんは楽しそうに作業準備をしていました。私に気付くと、元気な挨拶、そして様々な報告や相談。作業が始まると、皆で相談し、励ましあい、注意しあいながら、互いを高めあっています。感謝の気持ちを原動力として、作業をしています。

昼食の時間になり、花の寄せ植えを配達した時にいただいた梨を皆で食べました。真心のこもった梨はほんとうに美味しいものでした。利用者さんも、労いの気持ちを知り、特別美味しく感じたようでした。

午後の作業も終わり「お疲れ様でした。疲れたでしょう」と声をかけると、「疲れました。でも、一日作業して疲れてなかったらおかしいですよ」と笑顔で返答されました。帰り支度が終わると、次の日の作業の準備を自ら行い、笑顔で降園していきます。

その後は製品作りの為の材料を探しに外出しました。ネットトヨタ日立北店様が、学園を応援しようと、たくさん注文してくださったからです。

今日も、利用者さん、職員だけでなく、善意の方々に支えられた、感謝の一日でした。

職員リレー

振り返ると

ひまわり学園

小野 結也

「〇〇さんおはよう！」

ひまわり学園でも、一日は挨拶から始まります。挨拶するのと自分の気持ちも一気に切り替わります。自分自身しつこい性分のため利用者の方に相手をしてもらえらるまで挫けず行い続けます。挨拶をすることによってその日の様子がなんとなく分かると思えるようになったのは、少しずつ経験を重ねることができてきたからです。挨拶の仕方や距離感も人によって違うため、一人として同じことではないということも知ることがまたできてきました。

ご縁があり太陽の家に勤めてから五年、ひまわり学園では四年目になりました。最初は文字通り何も分からない状況での入職でしたが、関わってくださった方々のおかげでここまで続けることができました。その中でも特に気を付けたのが、「周囲をよく見ること」でした。あの利用者の方はどんなことが好きなのだろうか、あの支援員の方はどんな支援をしているのだろうか等々、「周囲をよく見る」と

で、利用者、者の方々のことや支援員の関わり方が少しずつ分かっていたような気がしました。またそれを続けることで、利用者の方たちがどんなことが好きなのか、どんな支援をすれば生活する上での一助になるのかも少しずつ知ることができました。

先ほども述べましたが、今年で太陽の家に勤めてから五年になりました。石の上にも三年といいますが、五年目に突入し自分の足元も、主観ではあります。がだんだんとですが固まってきました。この固まってきた足元から少しずつ視線を広くし色々なことを学び、利用者、者の方々と共に楽しい日々を過ごしていきます。もちろんそのためには、固めてきた足元も緩むことがないようにしていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

アクアマリンふくしま
に同行して

日立市太陽の家

根本美津子

六月のグループ活動でアクアマリンふくしまへ同行しました。日常の園内で見える利用者さんとは違った反応や姿に驚きと感激がありました。普段の送迎車中は眠ってしまうことが多い利用者さんが朝のお迎えの時からニコニコ顔で眠らず過し、全身か

ら嬉しそうな思いが伝わりました。イオンモール小名浜でそれぞれのスタイルでおいしく昼食を済ませ、いよいよアクアマリンふくしまへ。

館内では大きなトドや愉快なカワウソに手をたたいて歓喜する姿。チンアナゴの動きに関心を示し、じつと見つめる姿。そして、ご家族や自分へのお土産の買い物では職員も一緒に店内を見て回り一緒に楽しむ姿。アイスクリームをおいしそうに食べる姿などいつもと異なる表情や笑顔がたくさん見ることができ温かい気持ちになりました。

また、途中の水分摂取や利用可能なトイレの確認等職員の方々の安全に過ごせるための配慮や事前準備の大切さも感じました。

「笑顔と感謝を忘れずに」は太陽の家の合い言葉(理念)です。太陽の家に就職して二年になります。当初、新しい環境に不安はありましたが、この言葉に惹かれて太陽の家に就職を決めました。

「この世で一番美しいものは笑顔。この世で一番美しい言葉はありがとう」

私の好きな松浦弥太郎氏(エッセイスト)の言葉です。

日々の業務においては利用者さんに寄り添う姿勢。そして、職員の方々の間では「ありがとう

うございます」「お疲れ様です」の言葉が飛び交い気持ちよく仕事ができています。今回の活動に同行して利用者さんの笑顔を引き出し共に楽しむ職員の仲間に入れていただいたことに感謝しています。私も迷惑をかけるような体調管理し、もう少しこの職場で働きたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



笑顔とありがとう

日立市太陽の家 ボランティア

森山 唱子

初めて太陽の家を訪れたのは、人形劇かくれんぼで呼んでいた時でした。もう、30年以上も前のことです。今ほど障害福祉が世の中に広く知られていなかった頃だと思えます。初対面にも関わらず利用者の皆さんには笑顔で迎えていただきました。経験値のない私は何をしたら良いのかわからずに、スキンシップしながら同じ声かけを繰り返していたように記憶しています。保護者の皆さんも職員の皆さんもみんな笑顔でした。笑

い声が絶えず楽しそうでした。その後も年一回の人形劇での訪問が続くうちに何か太陽の家とかわりたいと思うようになり、ボランティアを希望しました。アラフォーの頃です。それ以来ボランティアも人形劇もお付き合ひさせていただいています。何の勉強もせず資格もないのに療育に参加できるなんて、すごい経験をさせていただいて感謝です。すごいことは他にもあつて、ほんの小さなことにでも「ありがとうございます」と感謝の言葉がたくさん聞かれます。「ありがとう」は、伝えた人も伝えられた人も幸せホルモンが分泌されたり、ポジティブになれたり魔法の言葉だそうです。人間関係が良好になるのは言うまでもないですね、笑顔になるのも納得です。活動ごとに職員の皆さんが準備してくださる工作材料や大がかりな道具(年々パワーアップしているような)もすごいです。利用者よりも楽しんでるかもしれません。(笑)

振り返ると長い間には色々なことが変わりましたが、この先も変っていくのかな。でも、利用者さんへの丁寧な対応と笑顔とありがとうは変わることがないですね。頼もしい職員の皆さんと元気な利用者さんとの時間は楽しいです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

笑顔と感謝

未来の予測は難しい

ひまわり学園 保護者 菅野 千登勢

早いもので息子の良樹がひまわり学園に入園して十二年目に入った。良樹ももう三十歳。道理で自分も年をとるわけだ。最近は病院に行くところだ。最近の〇〇ですね」とか「加齢によるものですね」などという言葉を聞くことが多くなった。

人が年をとることはごく自然の流れだが、私は障がい者の親ゆえにそれに対し少々抗う必要がある。息子の将来を安心と安全に満ちたものにしたからだ。入所施設にせよグループホームにせよ、当事者の障害特性を如何様にも理解し、そこから最善の支援を提供してくれるスーパー支援員がいてくれたらと思う。もちろん施設全体の雰囲気や運営方針なども重要だ。理想を言ったらキリがないが、虐待やいじめにネグレクトなどは

あつてはならない。自分が元氣なうちに、息子にとって安心安全な終の住み処を見つけたい。

ところで、私は障がい者の親だからと言って自分の人生を全て息子に捧げているわけではない。現実問題として、永遠に一緒にいられるわけでもない。お互いにほどよい距離をおいて、それぞれの人生を送るほうがいいと思う。親子離れ子離れの時期は近いのかも。

良樹の好きな物は何だろう。好きな食べ物や好きな場所、好きな音楽に好きな遊び、思いつく事柄はたくさんある。しかし三十年間良樹を見てきても、本当は解らない事のほうが多いのかもしれない。病院での診断によると知的レベルは永遠の三歳児。でも三十年の経験値は良樹を

ちゃんと大人にしてくれている。家での顔と施設での顔が違うのもそれだ。だからこそこれからは良樹のサポーターを増やして、自分は少し離れた所から見守りたいと思っている。

今のひまわり学園での生活

ピッピコンサート

ピッピスタッフの会 加藤 晶

皆さん、こんにちは！ピッピコンサートは心身にハンデのある方やその家族から寄せられたメッセージを伝える手作りコンサートです。

1985年から活動を始めて、来年で40周年になります。学校やイベントなどでミニピッピコンサートを年に数回行ったり、数年に一度日立市民会館や多賀市民会館で大きなコンサートを行っております。ところで皆さん、ピッピコンサートとはどんな意味があると思いますか？ピッピコンサートとは、ピッピと私たちがメッセージが曲を通して「ピッピ」と皆さんの心に届く音を表現してい

が親子共々快適なので、本音を言えば太陽の家の中でグループホームが増えたらいいのにも思っている。

さてさて、まだまだ遠いのか、もうすぐそこなのか、未来の予測は難しい。

ます。聴いていただいている皆さんに、メッセージがピッピと届くように、ピッピスタッフの会の仲間と楽しく活動しています。

私がピッピコンサートの活動を始めたのは2000年からです。当時、太陽の家の職員をしていた私の高校時代の友人が、趣味で音楽（作曲）をやっていた私にスタッフとして参加してみないかと誘ってくれたことがきっかけでした。当時私は、ピッピコンサートの事を詳しく知らなかったのですが、自分が作曲した曲が自分以外の人に聴いてもあらたらしいなという思いもあり、ピッピコンサートの練

習を見学してみようという気持ちになったのでした。初めてピッピコンサートの練習の見学をするために訪れたのが、練習場所であった旧太陽の家で、それが私と太陽の家との出会いになります。初めてピッピスタッフの練習を見た時、私はスタッフのみんなが作詞者のメッセージを伝えようと真剣に取り組んでいる姿を見て、本当に驚き感動したことを覚えています。またそれと同時に、あまりの曲のクオリティーの高さに、自分に来るのだろうかと不安になったことを覚えています。そんな不安を感じていたことを察知してくれたのか、当時ピッピスタッフの会の会長であった小又理事長が、優しく「大丈夫、できるよ。一緒にやってみようよ」と声をかけていただき、ピッピコンサートのスタッフとして活動を始めることになったのです。

作詞者のメッセージを伝える方法にはいろいろとあり、目が不自由な方へは歌を通して、耳が不自由の方へは手話を通してなど様々な方法を用いています。私はピッピで初めて手話というものに出会い、手話の表現方法の多様

(次頁へ)



天球劇場鑑賞の後、屋上に行くと青い海が見えました。たくさん遊んで素敵な思い出ができました。
(母子療育ホーム)



触感遊びをしました。スライムを作り、触ってみるとドキドキしたけどなぜか面白い！（太陽の家）



電車に乗って水戸まで外出、車窓からの景色、食事や買い物、小さな旅を楽しんできました。（ひまわり学園）



スヌーズレン、キラキラ光る部屋の中にはイルカが泳いでいます。心地よい空間で穏やかな時間が流れました。
(母子療育ホーム)

※写真撮影のためマスクをはずしていません

（前頁より）
さに、「手話は一つの言語」であると感じました。歌詞を曲に合わせて手話で表現する姿は、小さいお子さんから見ると、まるで歌の振り付けのように見えるようで、私の息子たちが小学校の低学年の頃、訳も分からず歌に合わせて手話をしていたことを思い出します。そんな小さかった息子たちも成長し、今では一緒にスタッフとしてピッピコンサートの活動をするようにになり、私としては本当に嬉しく思っています。
来年はピッピコンサート40周年の記念のコンサートを企画しております。太陽の子を読んでいただいている皆さん。一緒にピッピコンサートのスタッフとして活動してみませんか？ピッピコンサートでは、一緒に活動してくれるスタッフを常時募集しております。ちよつとでも興味を持ってもらえたら、お気軽に ppiipi@taiyoinoie.com までメールでご連絡ください。
ピッピコンサートは、これからも作詞者のメッセー지를皆さんに「ピッピッ」と届けられるように活動を続けていきます。

お知らせ

◎二〇二四年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 三百八十三名

男性 二百二十名

女性 百六十三名

○令和六年七月五日、当法人は五十四年を迎えました。当日職員の永年勤続表彰をしました。勤続十年の節目を迎えた数名の職員、勤続四十年を迎えた職員、日立太陽の家と共に歩んでくれたことに感謝をし、これからも利用者さんが笑顔になれる支援をしていきたいと思えます。

ご寄付ありがとうございました

○次の方から寄付を頂きました（敬称略） 六月～八月

黒澤 弘明 榎田 孝行

とく名

○次の方から物品の寄贈がありました（敬称略） 六月～八月

椎名 将光 大森 健二

興澤 幸夫 榎田 孝行

根本 将伍 内山 裕加里

編集後記

虫の声や風の音、雲の流れにも季節の移り変わりを感じます。短い秋を楽しみましょう。

（K記）